

うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 19



垂水神社の滝
吹田市

万葉集にも詠まれた
美味しい水の宝庫

吹田は、昔、「水田」と呼ばれていたように、美味しい水の豊富なところでした。中でも千里丘陵の南端にある「垂水神社」の滝（垂水の滝）は、1960年代までは、轟々と音を立てて流れるほど水量が豊かで、その水はおいしくて腐りにくく、瀬戸内海を航行する船が汲みに来たほどだったと伝えられます。「石走る 垂水の上の さわらび」の萌え出る 春なりにけるかも（志貴皇子）と万葉集にも詠まれています。

孝徳天皇の時代（645年〜654年）に、干ばつに苦しむ難波長柄豊碓宮（現在の大阪市中央区）に、懸け樋をつくって垂水の水を送ったといわれています。最近では一時と比べて水量が少なくなりましたが、今でも垂水の滝で行をする人がいるようです。



古代の海蝕崖跡も 歴史地理的価値ある遺物

滝の裏山と隣接する高台は、吹田市内の大半、生駒山方面、大阪湾方面、宝塚・西宮方面まで見通せる、風光明媚な場所です。

付近には、古代（約6000年前）の大阪湾による海蝕崖跡も随所に見られ、一帯は、歴史地理的な遺物とも言えます。

吹田市垂水町1-24 6垂水町・円山町周辺（阪急千里線「豊津駅」徒歩10分、地下鉄御堂筋線「江坂駅」徒歩20分）
Tel 06-6384-1526

Culture Navi かるちなーび

思想調査アンケート裁判の意義をもっともっと広げたい



思想調査アンケート裁判で、被告（大阪市）は大阪市役所の不祥事のすべてを労働組合の責任とし、アンケートに違法性があったと許されるかのような主張をしています。反論を準備するとともに、これからは原告団全員の陳述書作成、11月の「日本のうたごえ祭典」、6月22日の創作劇「スタンダップ」の成功へと、力を尽くしています。

私は、今年3月で定年退職し、4月から新しい区役所で再任用職員になりました。職場の管理職の方に裁判のリーフを渡して挨拶しますと

「はあ？」という反応でした。もっと裁判の意義を広げなければと決意を新たにしています。

「裁判に組合費を使って」青年が市労組に加入

4月25日には新しい区役所で門前宣伝にデビューしました。まだ私が同僚だと知らない人が多いなかでも、軽く会釈する人や「ご苦労さま」と声をかけてくれる人もいます。

先月、ニュースを読んだ青年が「裁判闘争に組合費を使ってほしい」と大阪市労組に加わりました。みんなに支えられて、元気にたたかっています。

「スタンダップ」はシンガーソングライターのかわさきゆたかさんが作曲した「思想調査アンケート裁判」の応援歌です。

「思想調査アンケート」裁判 原告55人の決意

スタンダップ

No.8 川本 正一さん

心に響くひとこと

器用なる者は頼て必ず油断有り
不器用なる者は我身を顧み
遅れじと嗜むゆえ追い越す
大蔵 虎明（江戸初期の狂言師）

器用な人間は、その才能に頼ってしまうため、必ず油断するものです。不器用な人間は自分をよく知って、遅れてはならないと練習するので、器用な者を追い越してしまいます。狂言師の大蔵虎明による言葉ですが、あらゆることに当てはまるはず。才能があってもそれにおぼれて精進しなければ、大成できません。また才能がないからといってあきらめてしまえば、せっかくの可能性も消えてしまいます。努力する「ノロマなカメ」でいいということです。

1616年フランクがえいが



（映画の宣伝チラシから）

「舟を編む」

辞書作りは出版社のセクションの中でも華やかさはまったくない部署です。なぜなら、企画から執筆、編集、出版まで15年から20年かかるという途方もない世界だから。しかし、それだからこそ、辞書作りには生きがいと情熱、誇りを賭けた人たちがいました。

映画のタイトルは、辞書を広大な言葉の船に例えています。

映画は、ある出版社の辞書編集部を舞台に、「大渡海」という新しい辞書づくりに取りくむスタッフの姿を描きます。原作は2012年の本屋大賞で第1位を獲得した三浦しるの同名小説。

玄武書房の営業部に勤める馬締光也は、名前のとおり、真面目で独特

辞書作りの熱き人々

の視点で言葉を捉える能力を買われ、新しい辞書「大渡海」を編纂する辞書編集部メンバーに迎えられるます。

言語に詳しい学者、長いキャリアを持つ女性編集部長など個性的な編集部の人々に囲まれて、新しい辞書づくりプロジェクトがスタート。一方、下宿先のアパートでは大家の孫娘と出会い、心ひかれていきます。

マジメな馬締役に松田龍平が挑戦しています。辞書作りが生涯の仕事として命を賭ける学者に加藤剛が元気をみせています。監督は石井裕也。映画を見終わった後、あらためて辞書をめくってみようかとおもわせてくれます。上映時間は133分。

● サッチャーは強い指導者でも愛されるべき指導者でもありませんでした
● モリッシー（英国のミュージシャン）

80年代に活躍したロックバンド、「ザ・スミス」の元メンバーである彼が4月8日に死去した元英国首相のサッチャーについてのコメントの一文です。コメントの中で彼はサッチャーの死に際して彼女を賛美し、彼女の失政には言及しない現英国政権やマスコミに対しても批判をしています。実は、他にもミュージシャンや映画監督がサッチャーへの批判を口にしている大衆文化と政治社会の関わりがうかがえます。